

= Match Report =

平成29年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会

準決勝

2017年 6月 24日 (土)

13:00 kick off 会場(栃木県グリーンスタジアム)

真岡高校

vs

矢板中央高校

2

1 - 1
1 - 1
0 - 0
0 - 0

2

PK

4 - 3

真岡

真岡

基本システム 1 - 4 - 4 - 2

基本システム 1 - 4 - 4 - 2



【Match Report】

準決勝第2試合。真岡高校と矢板中央高校の対戦となった。両チーム1-4-4-2でスタート。5分、直接フリーキックのセカンドボールをMF⑱山下がミドルレンジからファインゴール。矢板中央が幸先よく先制する。早々に失点した真岡はその2分後、FW⑳川原がゴール前の混戦からヘディングで得点して追いつく。その後、高いスキルを生かして矢板中央がボールを保持する時間が多い状況となる。対する真岡は、選手間の距離を適切に保つことで、グループでのボール奪取やセカンドボール回収を可能にして、ゲームを一方的なものにはさせない。互角の戦いが展開されて前半戦を終えた。

迎えた後半、SH⑳板橋の投入を契機に矢板中央の攻撃が活性化されるが、真岡高校は2トップを縦に配置して重心を下げ、守備に注力して得点を許さない。守備に人数を割き、攻撃が単調になりかけた真岡であったが、54分にMF⑦金澤のパスに抜け出したFW①根本が逆転のゴールを挙げる。逆転された矢板中央は、慌てることなサイドで時間を作って、前線の人数を揃えてからゴール前にロングボールを入れる形を繰り返す。その攻撃が奏功し70分にFW⑳板橋が同点弾を決める。その後、スコアは動かず延長戦を経てPK戦に突入し、真岡が決勝戦に進出した。

敗れた矢板中央は、長短のパスとドリブルを織り交ぜた攻撃で、常にゲームを優位に進めていただけに惜しい敗戦となった。ボール奪取後の攻撃の優先順位に課題が見いだされるであろう。勝利した真岡は、負傷交代が多く、ポジションチェンジを余儀なくされる状況下でも、各選手は運動性を保ち続けた。チームの戦術理解度の高さが光ったゲームであった。コンディションを整えて、決勝戦に臨んでいただきたい。

記載責任者 所属(今市高等学校) 氏名(北村 真一)